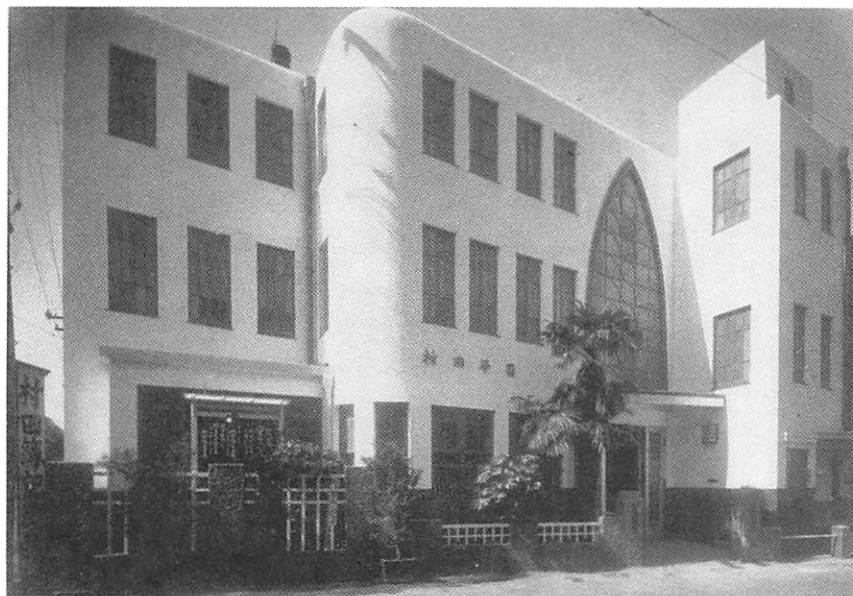


苦難・発展期（一九三―一九四五）

焼失と復興



昭和4年11月神田区仲猿楽町1番地に建てられた校舎
(区画整理により神田区神保町2の14番地に町名変更改正される)昭和20年4月の空襲で焼失

関東大震災と校舎焼失

運命の大正十二年九月二日

大正十年四月、神田仲猿楽町に移転した後、隆盛の一途をたどっていた村田簿記学校。しかし、大正十二年九月一日、関東大震災の一揺りがすべてを灰塵に帰してしまった。

この日はちょうど土曜日だったので、幸いにして生徒もほとんど学校にはいなかった。しかし、校舎の屋根は落ち、二階の羽目板はもぎとられた。五、六人の教員・生徒のみで重要書類とおぼしきもののみ運び出されたが、隣家から回ってきた火の手に手段もつき、校舎の倒壊するすさまじい音響に、すべてが終わったのである。

不屈の精神力で復旧へ

関東大震災はわが国開びやく以来の大惨事といわれ、倒壊家屋一二八、二六六戸、焼失家屋四四七、一二八戸、死者九九、三三一名を出した。九月一日午前一時五八分、相模湾の中央部に発生した地震は、直ちに関東地方を襲い、被害は東京と横浜に集中された。その結果が右のような恐るべき数字にまでなったのである。

こうした災厄の中にあっても、村田謙造の不屈の精神力は、さら

に神田神保町に三階建ての校舎を新築・拡張させた。この校舎は創立者の設計によるものだが、神田界隈の一大偉観でもあった。

村田女子計理学校の併設

尾崎罌堂と村田謙造

昭和六年四月、村田簿記学校の中に村田女子計理学校が併設された。

村田謙造はかねてから、新時代の女子に必要な経済知識と計理上の技術とを修得させ、家庭に、職場に、修養と手腕と実行力とを具備する練達有為の婦人を養成することを念願していた。村田謙造と親交があり、女子職業教育の草分けとして知られる嘉悦孝の勧めもあって、女子計理学校の設立に踏み切ったのだった。

村田女子計理学校の開設にあたり、村田謙造は尊敬する尾崎罌堂を訪ねた。村田謙造一家は数年間、神奈川県の逗子に居を構えたことがあったが、同じ町内に潔癖孤高の政治家として名高い尾崎罌堂が住んでいた。

その時の様子を村田謙造は次のように語っている。

*

「尾崎先生」

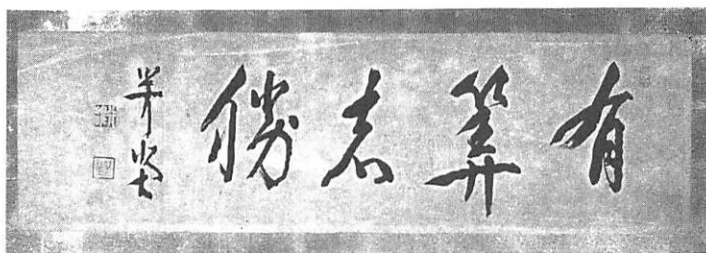
「何かね」

「実は私、先生にお願いしたいことがあります。このたび、女子計理学校といまして、これこれこういう学校をこしらえるんですか、何か先生の揮毫をいただけませんか」

「わしや、村田君、政治家だけでも、君の方の本職は専門じゃないから、何か調べておこう」

*

こういったやりとりがあり、三日後に村田謙造のもとに書留めが届いた。送り主は尾崎罌堂。「有算者勝」(算あるは勝つ)と墨痕鮮やかにしたためられていた。



尾崎罌堂筆「有算者勝」

尾 崎 罌 堂 (1858-1954)

本名、尾崎行雄。神奈川県人。罌堂、晩年は半翁と号。慶応義塾に学ぶ。第一議会以来、連続して衆議院に議席を占め、その間、第一次護憲運動に活躍。東京市長、大隈内閣の法相。潔癖孤高の政治家として特異の存在。

女子計理学校の入学案内

ここで開校当時の入学案内を紹介すると――

修業年限 四か年制女子商業



村田女子計理学校で授業する村田謙造

入学資格

募集人員

出願期日

入学考査

考査日

入学手続

第一学年は尋常小学校卒業者、第二学年は高等小学校または高等女学校各一年修了者、第三学年は高等小学校卒業または高等女学校二年修了者

第一学年一五〇名、第二学年若干名、第三学年若干名

毎年一月十六日より三月十七日まで

人物考査（口頭試問、身体検査）の結果ならびに小学校の報告書を参酌して決定する

三月十八日午前九時より

入学を許可せられたる者は本校所定の保証書用紙に記入調印し下記学費を添えて戸籍抄本と共に指定期日迄に提出せられたし

一、入学料 金三円

二、四月分授業料 金五円五〇銭

三、自治会費 金一円

合 計 金九円五〇銭

校 訓

一、誠実、勤勉、清潔であれ

二、健康にして勤勞にいそしむ人であれ

三、礼儀を厚くし、責任を重んじ、役立つ社会人であれ

なお、当時小学校の教員の基本給は月額五〇円前後だった。

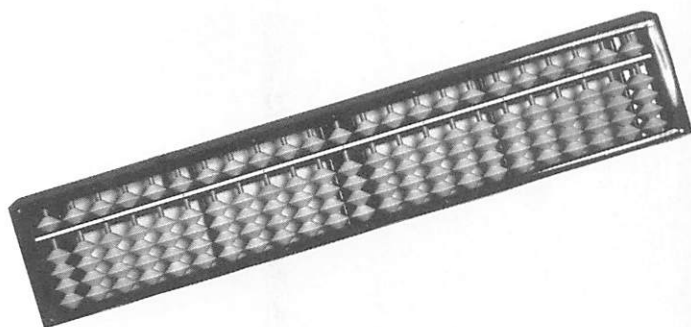


村田女子計理学校第1回卒業生(昭和6年10月14日)



「村田式算票」で練習中の女子計理学校生徒

『構造素朴、価格至廉、その名を算盤と伝ふ。世界一の計算器なり』
服部源次郎著「珠算十二講」(昭和2年 国際書房発行)より



写真は発表当時の四ツ珠算盤（外枠上部の三角型はルーラー代用として使用）創立前の明治41年3月に村田式計算器として発表以来、81年後の今日までこの形で続いている。



村田謙造と珠算教育

四ツ珠ソロバンの創案

フジヤマと珠算

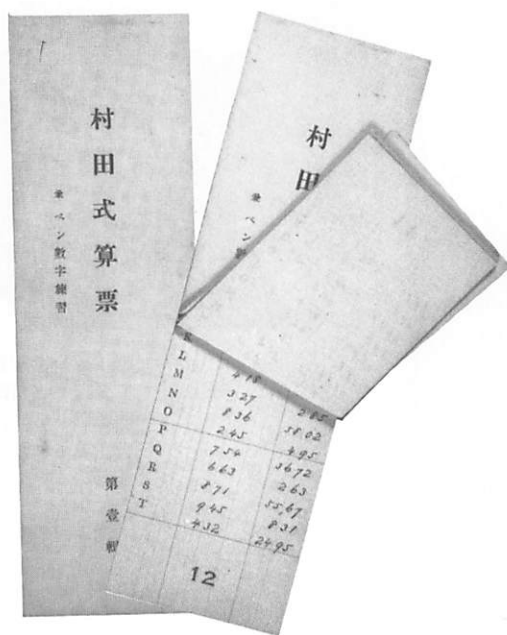
世界のどこへ行っても、わが国の珠算ほど計算術として有利かつ都合のよいものはないであろう。世界各国の計算器と対照してみれば、いかにその構造が簡単であるか、また、いかに安価で取扱いが軽便であるか、比較するものさえなかったのである。コンピュータが普及した今日においても、ソロバンの特徴はいささかも色褪せることはない。

フジヤマ(富士山)といえはすぐ日本が連想されるが、同様に日本の代名詞のひとつにまで発展したソロバン。その発祥は黄帝説、漢代説、宋代説、元代説、明代説といろいろいわれているが、中国で発明されたことはほぼ確定的な事実であるようだ。

しかし、これを発達・完成させたのはもちろん日本である。とりわけ、その指導者であり、銀行会社事務員養成所の創立前から村田式計算器(四ツ珠ソロバン)を使用、その普及に全力を傾倒した村田謙造の名は、珠算史にその功績とともに永久に残されることであろう。

ソロバンの革命、四ツ珠ソロバン

明治から昭和初期までのソロバンは地珠が五つあった。実際に計算する場合、下の一つは邪魔になりこそすれ用は足さなかった。一番下の珠をわざわざ隠す装置も現れる始末で、珠算家の間では長いこと「盲腸」扱いされていた。



当時考案された「村田式算票」

合理的思考法に優れた村田謙造は明治四十一年春、一番下の珠を取り去り、地珠を四つにすることを思いつく。文部省においても画期的アイディアとしてこれを支持、以来「五ツ珠ソロバン」は次第に姿を消していった。

昭和二年国際書房刊の『珠算十二講』で服部源次郎氏は「東京の村田速算学校長村田謙造氏は明治四十一年春に四ツ珠算盤を創案せられた」と紹介、絶賛している。

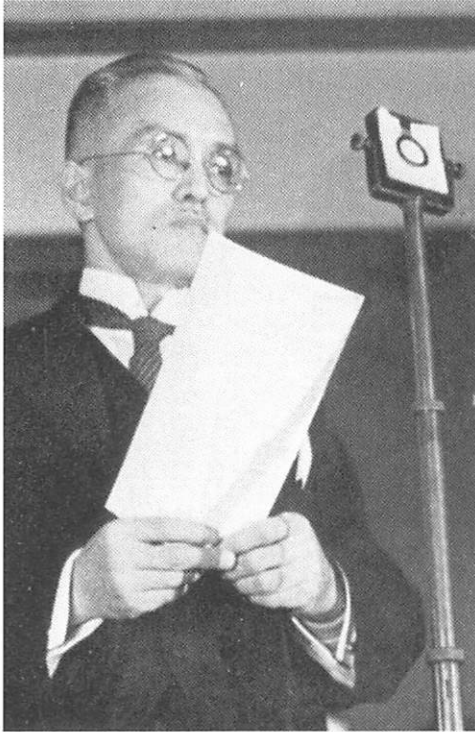
村田謙造の創案は「四ツ珠ソロバン」だけに限らなかった。当時、経理事務の担当者はソロバンとともに、帳簿の罫線を引くためのルーラー棒を持っていなければ仕事にならなかった。そのころのソロバンの上辺は四角になっていて、上辺にペンを当てて罫線を引こうとすれば帳簿が滲んだからだった。今日のソロバンはほとんど上辺は三角形にカットされて、上辺に当てて罫線を引いても滲むことはなくなり、同時にルーラー棒も姿を消したが、これを創案したのも村田謙造だった。

また、村田謙造は検定の練習用に「村田式算票」を考案する。合理的に編纂された算票は見取算や伝票算の練習に効果をあげ、村田の名物のひとつに数えられた。

全国珠算競技大会

珠算史に新たなページ

日本商工会議所、東京商工会議所共催、東京日日新聞社（現毎日新聞社）後援の「第一回全国珠算競技大会」は、昭和十一年十一月



第1回全国珠算競技大会の模様は朝日新聞社トーキー映画(148号)によって全国で上映されたが写真はそのひとこま。

第1回全国珠算競技大会、種目別競技での村田謙造の読上算

十五日帝国大学（現東京大学）講堂で華々しく開催された。

この大会には、全国の商工会議所がこぞって資金を提供、当時三万円の予算がかけられ、わが国独特の計算器の発達助成のために、大いに力を入れた珠算史を飾る豪華な大会であった。

各地商工会議所では、競技会参加者の厳密な推薦試験の結果、当日は遠くは朝鮮の京城、平壤、北は、北海道、南は九州と、文字通り全国六六都市から三三四名のそうそうたる代表が選出されていた。

圧巻だった読上算

大会の競技種目は、七名の日本一の珠算専門家の立ちあいの下に、種目別・総合・団体の三種を行い、読上算・見取算・読上暗算・乗除加減算・伝票算・外貨換算などの難しい計算が行われた。当日読上算、読上暗算を担当した村田謙造の名調子は、いならぶ外国使臣の舌を巻かせ、その実況はJ O A K（現N H K）の全国中継となり、東京朝日ニュース映画となって、全国の耳と眼に伝えられたのである。

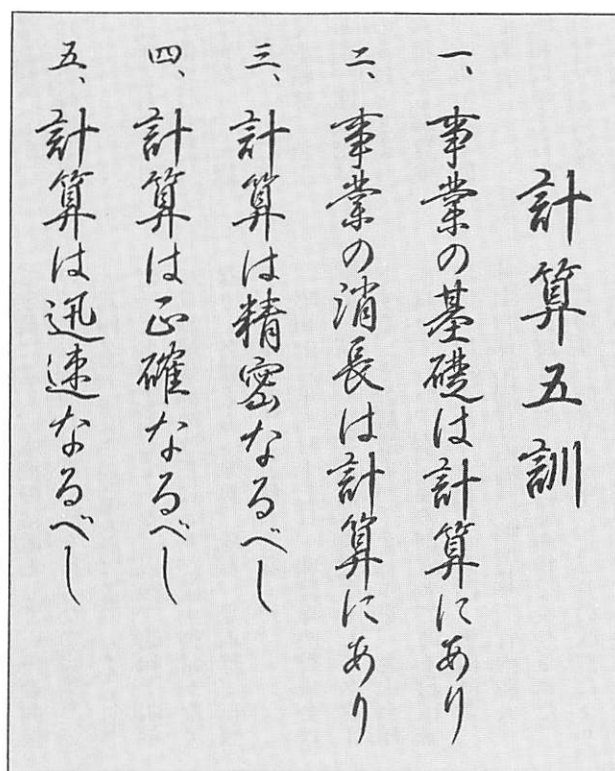
とくに、右肩から斜めに出身商工会議所の名の入った白たすきをかけた選手の姿が印象的だった。そして、朝八時三〇分から午後四時すぎまでパチパチとはじく珠の音は、まるで機関銃の連射であった。

当日の都市対抗競技では、名古屋の六〇点が一等、二等の岐阜は五五点、三等の沼津は四七点となり、個人競技の読上算では、選手中の最年少者桜井道子さん（一六）が見事一等を獲得した。

その後、この大会は「国民珠算競技大会」となり、現在に至っている。



第5回全国珠算競技大会会場 壇上は村田謙造。来賓席前列教壇の右は、
親日家イタリアのアウレッチ大使（サインは同大使）



そろばん今昔

大正十四年の教育法改正によって――

『算術ハ筆算ヲ用フヘシ。尋常小学校ニ在リテハ土地ノ状況ニ依リ珠算ヲ併セ用フルコトヲ得。高等小学校ニ在リテハ珠算ヲ課スヘシ』。と記された「珠算」は、昭和にその隆盛と衰退の姿を見せている。

珠算検定の第一回は、昭和三年三月十八日に「市立実業学校珠算奨励会」主催で行われた。この時の検定種目は級によって異なり、三級は「読上算、見取算、乗算、除算」、一、二級はこれらのほかに「伝票算、見取暗算、読上暗算」となっていた。以後、毎年一回検定は行われ、市立実業学校の生徒のみにとどまらず、広く門戸を開放し、昭和六年から珠算検定は東京商工会議所によって、改めて第一回から行われるようになったのである。

この記念すべき第一回は、昭和六年二月十五日、志願者一、二八八名で行われ、その後、志願者の数は、第二回には一、六七一名、第三回には二、三六一名、第四回三、四三五名と年々増加していった。その後、昭和十年には、乗除算に小数を含む問題が加入されている。なお、当時、第一級合格点を得た種目については、以後継続して行う試験二回にわたり有効であった。

第五回が行われた昭和十年二月十七日は、

(志願者三、五六七名) ラジオ・ニュースで受験者募集をしたため、受付開始一時間足らずで定員に達し、臨機の処置として、一週間後の二月二十四日に第六回を行った(志願者一、一八四名)。また、翌第七回には、なんと七、七三七名が志願している。以後、昭和十四年には試験規則の改正により、読上種目がなくなり、各級とも「乗算、除算、見取算、伝票算、見取暗算」の五種目となった。

昭和十六年二月十七日、珠算専門委員会は解散、新しく「珠算振興委員会」としてスタートする。その解散のパーティーを、丸山会館において行い、本学園の創立者である村田謙造は、川村寛治、斎藤仁右衛門、脇田直弥、井上六郎、山崎与右衛門、稲垣義一、竹内和夫、宇野武雄氏らとともに感謝状を授与された。

その後、昭和十八年、十二月の改訂により三級の見取暗算が、昭和四十三年六月からは一級および二級の見取暗算がなくなり、合格点等の変更をみて今日にいたっている。

最高時には年間一五万人を超えた受験者も、今では毎回減少の一途をたどり、平成元年六月の検定からは「東京珠算教育連盟」にその実施がゆだねられた。

村田珠算競技大会

名物となった村田の大会

珠算能力試験制度の生みの親であり、珠算競技大会の先駆である村田謙造は、単独でも珠算競技会を主催した。「村田珠算競技大会」は、大正二年五月に第一回大会を開催以来、村田珠算講習会とともに斯界の名物行事としてすっかり定着した。

競技会は常に新人の斯界への登竜門として、また、技能錬磨の大道場として、各方面からその開催を渴望され、毎回予定人員の超過を見る盛況だった。

第二〇〇回村田珠算競技大会

記念すべき第一〇〇回村田珠算競技大会は昭和十二年八月十五日に開催された。

第一〇〇回目の競技大会とあって、会場は超満員となった。参加者は日々の猛練習で力をつけ、空前の激戦になるものと期待されていた。一方、村田謙造は珠算の指導で各地に招へいされる毎日がつづき、この第一〇〇回記念競技会も日程の中途ながら九州路から引き返し出席した。

当日は簿記学校三階の大講堂で開会、山田教務主任から「珠算練達の秘訣はこれを競技化するにあり」と競技大会開会の辞があった。続いて、係員からの競技上の注意があり、村田謙造が登壇、「暑しくて皇国に生命を捧げし出征将兵の労苦を思え、各自の天職に生命を

打ち込み、今日もこの競技会で最善を尽くせ」と激励した。

やがて場内に鳴り響くベルの音、水を打ったような静けさ、闘志に燃える瞳、火花を飛ばせんばかりの指頭は、村田謙造の最初の一声を待ち構えて息詰まる緊張、「始め」の聲が響いて第一〇〇回目の競技会の火蓋は切られたのである。

本競技種目は見取算、乗算、除算、読上算、番外競技として読上暗算の読上選抜が息もつかせずに行われた。成績発表までの時間に記念撮影があり、再び講堂で村田謙造の講評、賞品授与が行われた。また、この大会のユニークさは、競技方法がタイムならびに得点数等総合成績をもってされたことだった。また、番外受賞規定により極めて興味ある賞品授与が行われ、他には見られない面白さは、緊張した参加者の心をいやしてくれた。

第一〇〇回競技会受賞者

一 等	金牌	金子 鎮江
二 等	銀牌	田村彦次郎
三 等	銅牌	小田百合子 矢島 多代 市川 政信
		山本 清 大倉よし子

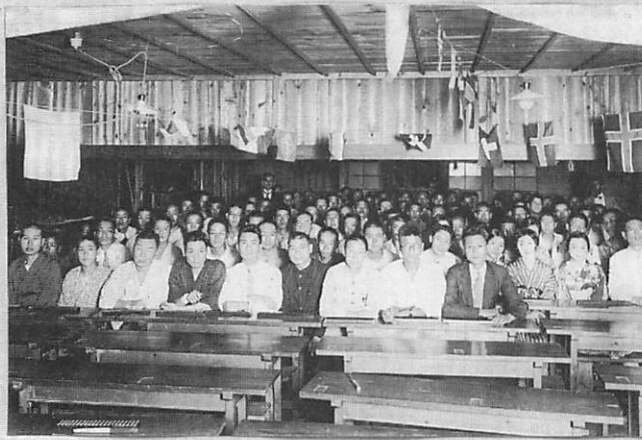
このほか昭和十一年二月九日には、村田簿記学校が主催となり、東京日日新聞社後援のもとに、「都下高等小学校選手珠算競技大会」が開催されたが、この実況は、その後パラマウント映画となって、小谷ヘンリー氏によって初めて海外に紹介された。

第七十九回珠算競技會。
會場及會員（百四十四名）



昭和四年八月二十一日午後六時開催

村田簿記學校
村田速算學校



第79回村田珠算競技大会(この回までは夜間行われていた)



第80回村田珠算競技大会（この回より昼間の競技大会となった）



第100回村田珠算競技大会（昭和12年8月）前列中央は村田謙造

村田謙造追悼集「有算者勝」より

あの頃 —— 大正から昭和のはじめ ——

村田 謙造

私が志を立て、東京神田に現在の村田簿記学校の前身を創設したのは明治四十二年十一月、すでに五十年前のことである。まだ簿記は世に知る人の少ない時であり、珠算は、その必要性は認められながらも、東京ではまだまだ幼稚な頃である。むしろ地方の方が盛んだったといえる。

珠算、簿記を中心とした実業教育に、身を挺しようとした私の前途は、容易なものではないと思われた。それだけに私は、むしろやり甲斐のあることとして、ひたすらこの道に進むことの決意を固くした。

時は間もなく大正に移り、第一次世界大戦の落ち着きとともに、漸く一般の人々も珠算に関心を持つようにはなってきたものの、今から思えばまことに微々たるものであった。珠算塾もほとんどなく、僅かに少数の商業学校や、ごく限られた範囲の学校で指導するに過ぎない状態だった。

珠算の発展を妨げた原因の中で、当時としては未だ明治時代からの名残りで、士・農・工・商の階級的意識があったことも忘れてはなるまい。そろばんは商人のもので、高潔な人間の手にすべきものではない、というような誤まれる意識を持った人々が多かったことも事実である。

何とか生徒の興味を惹き、延いては一般の関心を高めようと考えた私は、かつての珠算選手としての経験を基に、競技会を開催することにした。

こうして始めた私の学校主催の競技会は、のちに百回を数えるにいたったが、当時、それは本校生徒を中心とする限られた分野と、特殊な地域に過ぎず、当然満足できるものではなかった。

しかし、この頃から徐々にではあるが、東京には多くの有能の士が集まり、やがて盛りゆく珠算のきざしが芽生えていた。

□

我が国文化の中心である東京に珠算の花を咲かせる基礎を創ろうと語り合った人々には、村林専之助、高井計之助、神尾錠吉、川村貫治、石上録之助、斎藤仁右衛門、脇田直弥、洪木直一、山崎与右衛門その他の各氏があった。今はすでに故人となった人々もいるが、なつかしい斯道の先覚者達である。これらの人々の中で、高井計之助、村林専之助、川村貫治の諸氏と私が発起人となり、東京の珠算界の連絡機関として、そろばんの形態から名付けた「五一会」を創めたのは、たしか、大正十一年だったと記憶する。

今は遠くなった大正時代への、郷愁にも似たなつかしい思い出の一つである。

やがて大正も去り、昭和の時代を迎える頃になると、固かったつぼみが漸く開きそめるように、多くの人々の手によって培われた成果が現れてきた。この頃には地方からも気鋭の士が続々と東京に集まってきた。

昭和三年二月から東京市実業教育局でおこなっていた、市立実業学校珠算奨励会の珠算検定試験を、前記の諸氏などとともに、一般に公開すべく努力し、ついに、これを東京商工会議所に移管せしめ、昭和六年二月、初めてその第一回の珠算能力検定試験を施行することに成功した。これがいま、全国一斉におこなわれている商工会議所の検定試験の始まりである。当時は東京のみでおこなわれ、受験者数百名を数えるに過ぎなかったこの検定試験も、現在は年間数十万の受験者があるという。まさに隔世の感というべきだろう。

その頃は年一回、厳寒の二月に行われ、検定種目の中に読上算、読上暗算が含まれていたことは、知る人も少なくなってきた。

私も試験委員として各受験場を読み上げて廻った経験がある。暖房装置も現在のようでない寒い教室で、足をがたがたさせ、手をこすりながら試験開始を待った当時の

受験生の中には、いまの教員が相当いるのではなからうか。

この検定試験を一契機として、東京の珠算学習者は漸増し、珠算塾も増加してきた。競技会も招待競技を中心に多く開かれるようになった。中には地方遠征を試みる学校も出てくるようになってきた。

こうして盛り上がってきた珠算熱を、さらに煽ったのは、昭和十一年に、同じく商工会議所の主催で初めて大がかりな全国珠算競技大会を開催したことだ。当時の東京帝国大学、いまの東京大学で、全国各地から選ばれた多くの選手達が、出身地名を入れた白だすきを肩に技を競う有様はまことに壮観だった。いまの国民珠算競技大会の前身である。

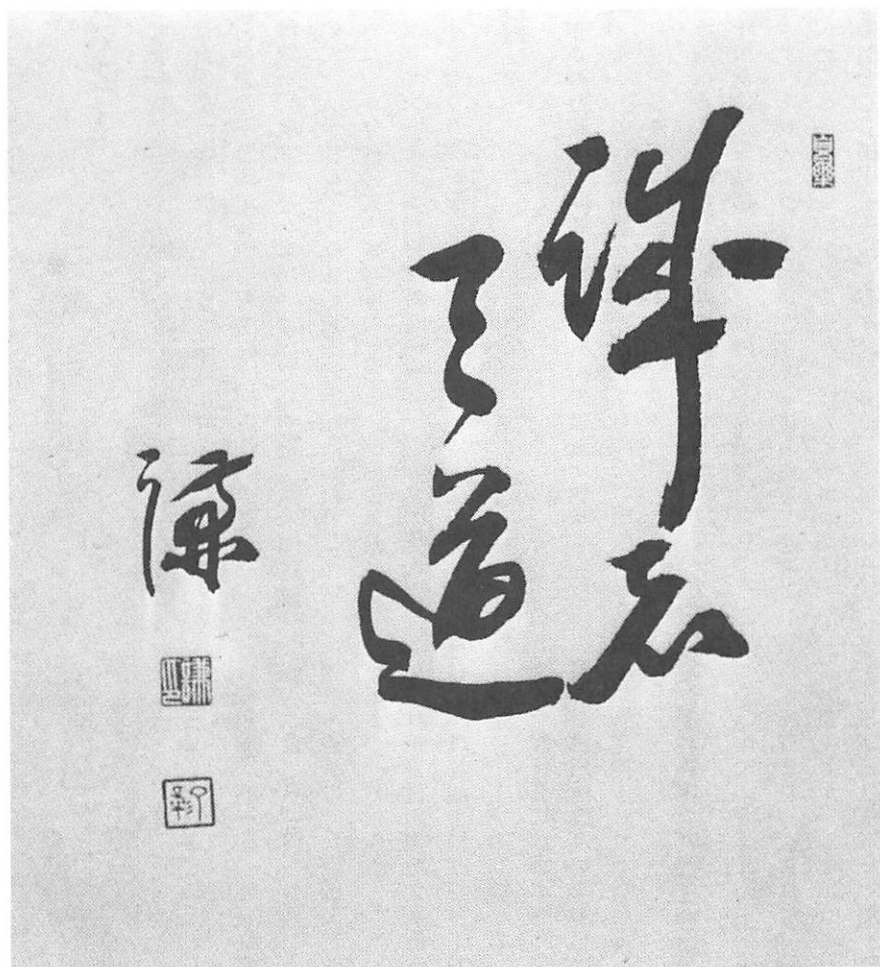
越えて翌昭和十二年、同じ東京帝国大学で第一回世界教育会議、ならびに汎太平洋教育会議が開催された。その席上、わが国の特技である珠算を紹介するよう要請され、東京の各商業学校から一名宛選抜し、模範演技を公開することになった。私も指導者の一員として読上算をおこなったが、選手達の熟達した指捌きは、世界各国から集まった多くの碧い眼の教育者達に、「ワンダフル」を連発させたことである。その印象はいまだに私の脳裡に強く残っている。

□

以上は私の直接関係した事柄であるが、この頃から珠算は隆盛の一途を辿り、私達関係者を大いに喜ばせたものである。巷にそろばんを抱えた児童、生徒の姿が多くみられるようになったのもこの頃からである。

この時代の若き選手が、いま、日本の珠算界を背負って立っていることを考えれば、私達の微々たる努力も決して無駄ではなかったと考えている。

惜しむらくは、第二次世界大戦の勃発によって、その好むと好まざるとを問わず、幾多の若き俊英を戦野に失ったことである。私の直接指導した有為な青年も多数将来ある身を散らせてしまった。戦争は珠算界にも多大の被害をあたえていることは悲しい事実である。



村田謙造筆「誠者天道」（誠ハ天ノ道ナリ）

世界にソロバンを紹介

世界教育会議のハイライト

昭和十二年、東京帝国大学で世界教育会議が開催された。その第三日目に「初等教育部会」の最終日を飾る「珠算教育」があった。大会の初日から、英語の不徹底からややもすれば押され気味だった日本側も、村田謙造が一度ソロバンをひっさげて立つや、欧米側はたちまち圧倒されて、大会空前の大喝采の嵐を巻き起こした。

広い教室の内外は、小学校の先生で超満員である。演壇には長さ三尺の大きな「ソロバン」をすえ付け、解説の後、一〇〇名の男女生徒は、机上の小さなソロバンを一斉に手にした。

ワンダフルソロバン

あらかじめ配布された英文の問題用紙は、八桁の難しい加減乗除から、四桁の数字を一五並べた暗算、満場がかたずをのんで緊張する中に、ソロバンの珠の響きはすさまじい。

国家予算のようなばう大な数字が速射砲のように壇上から読み上げられると、少年少女の指先は超スピードで白熱の火花を散らし、「はい、できました」と林のように小さい左手が挙げられる。時間はたった三〇秒、恐るべき「ソロバンのスリル」にアメリカの女性教師たちはただあ然として拍手の連続である。

当時精巧な電気式計算器に慣れた彼女たちも、このソロバンの神技と威力に目をまわし、「ワンダフルソロバン」と口々にソロバ

ンを礼賛したものだ。た。

ソロバンのレコード

名調子がレコードに

昭和十二年一月、全国のレコード店に、ほかに類のないレコードが現れた。と同時に、このレコードは俄然大きな反響を呼び、学校・銀行・会社に一大旋風を巻き起こし、レコード界に新風を送ったのである。

これが、村田謙造吹き込みによる一〇インチ盤で、当時一円五〇銭の「珠算能力標準レコード」であった。レコードの内容は、第三級読上算上下、第二級・第一級読上算、読上暗算からなっていた。大きな競技会には必ず専門委員を委嘱され、読上算と読上暗算を担当した村田謙造のレコードは、全国の珠算検定受験者には、またとない師範役として重宝がられた。

文部省が認定し、商工会議所も推薦

JOAK（現NHK）を通じて全国に中継されたり、ニュース映画で海外まで報道された村田謙造の名調子は、ソロバンのレコードの出現により、どんな山間・地方の小学校の教室でも聞くことができ、珠算能力の向上に大きな役割を果たした。

文部省もその優秀なことを認め、広く一般に文部省認定、東京商工会議所推薦として発表された。



東京商工會議所珠算能力検定試験委員
全國珠算競技大會専門委員
村田簿記學校長・村田女子計理學校長

村田謙造先生

吹 込

ソロバンの練習はレコードで!

文 部 省 認 定 (認定番號第三七八號)
東京商工會議所推薦

珠算能力標準レコード

第三級 讀上算 上下 (10074)

第二級 第一級 讀上算及讀上暗算

◇十吋盤各一圓五十錢 (10075)

居ります。

吹込みの村田先生は讀上げの正確なること、明瞭な標準語で銀道と論曲で練え上げた美聲は、さながら優れた音楽を聴くやうでもあります。
文部省では、その優秀性を認めて「認定」を下されました。誰にも獨習で勉強出来る様、珠算上達の秘訣を公開した懇切なテキストが添へてあります。珠算検定試験に容易に合格したい方は勿論珠算を短時に上達したい方はこのレコードにお頼りになることが一番の近道です。
(最密のキングレコード特約蓄音器店にお申込み願ひます)

珠算界に
投じた大ヒツ
ト! 發賣以來銀行
に會社に學校に官廳に嵐の如き大歡
迎をうけ、珠算検定受験者にとつて
は絶好無二の師範役と重寶がられて

!! 然果



簿記・珠算教育に不朽の足跡

出講と委嘱

村田謙造が他校に初めて簿記珠算の講師として出講したのは大正六年九月からであり、専修大学と専修商業学校で大正十一年八月まで指導にあたった。また、早稲田実業学校へは大正八年十一月から大正十一年五月まで珠算専任講師として招かれている。

昭和に入ってから、慶応義塾大学経済学部三年計理学研究会へ出講し、昭和七年十月からは、東京府立園芸学校に珠算講師として出講し、昭和十四年十一月まで指導にあたっている。

こうした数々の学校関係の指導を担当する一方、東京府学務部職業課職業補導場や、東京市知識階級職業紹介所商業講座に出講指導したのをはじめとして、諸官庁、会社、団体等へ定期的に出講するほか、臨時の申し込みもあり、文字通り席の温まる暇のない有様であった。このほか鉄道弘済会の講師も委嘱されていた関係で、村田謙造は全国主要都市のほとんどを行脚することになった。

たとえば昭和の初期に秋田県産業組合協会が主催した「村田式通俗珠算講習会」。講師には「村田簿記学校長 慶応大学講師 計理士 村田謙造氏」とあり、夜間部は七月二十五日から二十七日まで、午前部および夜間部は七月二十七日と二十八日に開講されている。最終日の二十八日には速算競技会が開かれ、一等一名に金牌、二等二名に銀牌、三等三名に銅牌が授与された。会費は一人一円、学生は一人五〇銭（同協会の会員校は無料）だった。

珠算の振興に東奔西走

村田謙造の酷暑克服は徹底したもので、昭和十二年八月のスケージュールを見ても、その目覚ましい猛闘振りに敬服しないものはないだろう。

東京で珠算夏期講習会を前後二回開催し、第一〇〇回珠算競技大会をすませた村田謙造は、門司商工会議所主催の珠算講習会ならびに競技会に出席した。八月十八日から二十日まで講習会を、二十一日には学校職員、会社、商店の珠算堪能者、商業学校生徒中最上級者等による競技会を行い、八月二十三・二十四日の両日は、福岡市主催の講習会に出講、同市の市立高等実業学校講堂において、小学校、青年学校、実業学校の教職員を対象に講義を行っている。

八月二十六・二十七両日は、下関商工会議所が主催となり、下関市および近郊の各学校実業科担当教員を主体とした者に第一線で活躍するビジネスマンも加わり、盛大に珠算夏期講習会が行われた。

第一日は、会頭あいさつの後、村田謙造の豊かな内容と巧みな話術で、珠算の歴史、重要性、ソロバンの扱い方などに関して説明した後、実地にソロバンをとって親しく教授し、会員に多大の感銘を与えたのである。

第二日目は、防空練習のため予定を変更して開講されたが、前日に引き続き教材について逐一説明した後、各例題について基本的な練習を行い、予定時間を一時間も延長したのである。

こうした講習会や競技会は、全国にわたり毎年繰り返行われたのである。



第一陸軍病院職能教育部の簿記珠算科派遣生徒(昭和15年村田女子計理学校にて)

珠算大会の指導

一方、昭和十年十二月には東京商工会議所簿記検定試験常任委員を嘱託された。なお、昭和十一年からは、日本商工会議所、東京商工会議所から全国珠算競技大会専門委員を嘱託されるなど、半世紀にわたる長い間、簿記珠算の普及にひたすら努力してきたのである。

また、昭和十二年七月には、日本勧業銀行の委嘱を受け、同行珠算能力検定試験制度を設定し、この指導のかたわら同行珠算競技大会を指導執行した。さらに、同年十二月には、全国無尽中央会（全国相互銀行協会）の委嘱も受けて、同会の珠算能力検定試験制度も設定、この会に指導に当たると同時に同会全国珠算競技大会を指導していた。

変わったところでは、白衣の勇士の簿記珠算の指導があげられる。昭和十五年三月から東京第一陸軍病院職能教育部へ出講。傷ましい白衣の勇士に講義する村田謙造の真剣さに、めきめきと上達した勇士たちは、村田女子計理学校で日頃の勉学の成果を試すべく検定試験にいどみ、その結果は、村田謙造も舌を巻くほどの立派なものであった。

當時を回想して村田謙造は、「大部分の勇士が甲種商業学校卒業以上の実力だった。隻腕勇士が左手で目にも止まらぬ早さで算盤をはじいている姿が今も目に浮かんでいる」と語った。病院内だけの練習で、実力さえわからなかった勇士たちの顔に、安堵の微笑が浮かんだことだろう。

こうした大きな足跡を残してきた村田謙造の終始一貫する強い信念と豪快無比な意気は消えることなく貫かれた。

二十周年目の試練

新校舎が類焼

災禍は予告なしにやってくるものである。昭和十四年の創立三十周年を記念し、村田学園の大拡張計画の準備も完了した昭和十二年六月二日夜、突如として隣家の電気店から出た炎は、夜間部授業中の本校舎を襲い、一瞬にして類焼の災厄に遇ったのである。

幸いにして一人のケガ人もなく、書類も敏速に搬出し全焼は免れたにしても、およそ半焼ほど厄介なものはない。直ちに改築工事に着手したが、意外にその損傷は大きかった。解体工事には思いのほか時間と費用を費やし、教務の上にも少なからず支障をきたしたことはいうまでもない。

思えば、この災禍に遇った校舎は、昭和四年十一月三日に竣工した三階建てコンクリートの近代様式建築であり、従来の学校としては注目に価する芸術味の盛られたスマートな建物であった。

職員会議の記録から

当時の苦境をうかがい知る貴重な資料がある。昭和十二年六月二十六日(土)、街が静かな闇に包まれる午後九時から、校長室で職員会議が開かれている。出席者は村田謙造以下七人。議題は次の十項目だった。

一、本校の特長を徹底して發揮するための教授上の具体的方法について

二、生徒の徳性涵養に必要な施設設備について

三、校務(教務、庶務)を能率化するための方法について

四、校友会、同窓会等の強化と本校後援機関の設置について

五、本校関係者並びに一般有力者を網羅する本校後援機関の設置について

六、本学園の機関紙発行について

八、創立三〇周年記念事業について

九、本校生徒数を三倍に増やす方法について

十、在校生数を安定させる方法について

議事の前に村田謙造は「再来年は三十周年を迎える。今回の類焼は大変な災難だったが、三十周年記念を機に更生躍進すべき重大な時期にある」として、全職員的一致協力を呼びかけている。

議題から察せられるように、苦境の中にあっても決して望みを捨てなかった。校舎再建のことはもちろん在校生のことも教職員の脳裏から一時も離れることがなかった。議題の第十にもみられるとおり、校舎の大半を失った生徒たちはやむなく自宅に待機せざるを得ず、教室はまばら。生徒の士気も減退していた。そこで、欠席した生徒の家庭を訪問したり出席を促す手紙を送付することなどが決議されている。

昼夜兼行の血の滲むような努力によって内部工作を急ぎ、仮校舎に収容中の生徒を迎えたのは七月五日、改築工事に着手して一か月を経ないスピード振りだった。そして、外部工事も完成した白亜の校舎が、面目を一新して仲猿楽町に浮き彫りされたのは、昭和十四年七月二十六日、創立三十周年を迎えた意義深い年でもあったのである。

戦時下の教育活動



新宿駅頭で全国で初めて募金に協力する村田女子計理学校生徒
左端は村田謙造

街頭募金運動

「皇軍慰問街頭募金」を決議

昭和十二年七月七日、蘆溝橋に起こった一発の銃声は、再び東亜の空に妖雲を呼び、日本と中国の関係は日増しに険しくなっていた。全国民は挙げてこの戦況に注目し、各地で慰問金の募集が行われた。これらの募金運動に先んじて、昭和十二年七月二十日、村田女子計理学校では、第一三回生の発議により「皇軍慰問街頭募金」を敢行したのである。もちろん、これは国への奉公と、自らの精神修養のためでもあったのである。

この街頭基金には、次のようないきさつがあった。

七月十七日に開かれた同校生徒学期末懇親茶話会の席上で、二、三の生徒が、茶菓子代の一部をさいて皇軍に送ろうと話を持ち出したのである。その純情は居あわせた全生徒の心の琴線にふれ、懇親会はたちまち慰問準備会と化したのであった。憂国の至情は灼熱にも増し、ついに一生徒の発言は「皇軍慰問街頭募金」にまで発展したのである。

このことは十九日朝学校に報告された。生徒の申し立てを受けた学校当局は、直ちに緊急職員会議を開き、施行日を二十日から三日



宮城のお壕端で清掃に奉仕する村田謙造と村田女子計理学校生徒

間の午後と決定したのである。生徒は募金函、白襷の作成にと、それぞれ急ピッチで準備を開始した。生徒一同の熱誠により、当日正午までに白襷一〇〇本、募金函一一八個が作られ、職員側は市内十数箇所の警察署を歴訪して了解を得、準備はすべて完了した。

炎天下の街頭募金

午後一時、村田謙造校長以下一班に分かれた職員生徒はそれぞれの配置についた。無風の街頭は、真夏の午後の陽差しに灼かれていたが、中国の炎熱を思って忍び、謙譲にして真摯な態度は、往き交う人々の心を捉え、予想以上の好成績を挙げた生徒たちは、唯感激し、互いにその日の労をねぎらい、明日の奮闘を誓うのであった。

このようにして二日間を終了し、第三日目を迎えて生徒たちの情熱は頂点に達した。進んで終日の奉仕を申し出るものが続出し、学校当局もその真情を汲み、またこの奉仕の有終の美を飾るため、関係官庁の了解を得て終日奉仕を敢行、校長自ら終日全域にわたって巡視激励して廻り、生徒の意気も最高潮に達したのである。連日の奮闘にかなりの疲労は隠すことはできないにしろ、各自それぞれの部署において立派にその任務を果たし、その統制、規律、動作の厳正は見るものに襟を正させるほどであった。

この結果、実に前二日に比べて数倍の増額を示したのであった。こうして一同の感激と興奮のうちに、午後五時半全日程を終了し、三日間にわたる尊い生徒の奉仕と、市民の憂国の熱情の結晶は一一八の函に秘められ、明日の開函式を待つのみであった。

翌七月二十三日午前一時、学園講堂には、神田区長代理、柳瀬西神田警察署長、軍側からは野砲兵第一連隊野末少佐、神田在郷将



4年制度になって初めての入学式。前列左より6人目は村田謙造、右隣は嘉悦孝先生

校分団代表参列の上、式は挙行された。来賓祝辞のあと、いよいよ生徒各自の手によって、尊い奉仕の結晶である募金函は開かれたのである。

開函係から計算係、読上係、記録係と伝票はリレーされて、最後の藤間主事により、総計一、五三三円と読み上げられると、満場に拍手は高鳴り、ことのほか大きな結果に万感胸に迫り、生徒たちの中には涙ぐむものもあった。

式が終わって、校長以下生徒一同は、直ちに報知新聞社（現読売新聞社）を訪問、同社講堂で、同社赤石取締役その他の列席のもとに寄託の手続きが終わった。

悪化する戦局

女子計理学校の久堅町移転

女子の職業教育に新生面を拓き、特異な教育活動をつづけてきた「村田女子計理学校」は、日毎に発展、ついに昭和十四年一月には、文京区久堅町に校舎を新築移転した。これが現在の「村田女子商業高等学校」の前身である。

また、昭和十八年二月には組織を財団法人とし、文部大臣認可の甲種女子商業学校に昇格した。

貞風館の開館式

講堂兼道場の貞風館は紀元二六〇〇年記念事業として、資材入手



貞風館道場で稽古中の村田女子商業学校生徒
(正面は村田謙造、右は本校の多賀師範)

当時の村田謙造



困難等の諸事情を克服し、昭和十五年六月末に完成した。

七月六日正午、校長以下教職員・生徒一同が参列、修祓式を厳かに挙行、村田謙造が式辞を述べた。この後、府知事代理、範士高野佐三郎は剣道の歴史について説き、引き続き、本校師範教士高野泰正と教士大村隆の大日本剣道形である仕太刀受太刀、いずれも真剣を用いたすさまじさに、一同剣道の真髄に見入るばかりであった。貞風館は床の下に瓶を埋めた本格的な建築で、道場に、凛とした気合が響きわたった。

最後に多賀師範の薙刀などがあり、午後三時、めでたく式は終了した。

なお、当時の女学校は薙刀を教科に取り入れていたが、村田女子計理学校では全国に先駆けて剣道を採用した。高野佐三郎範士の指導を得て、心身の鍛練に大いに成果をあげた。

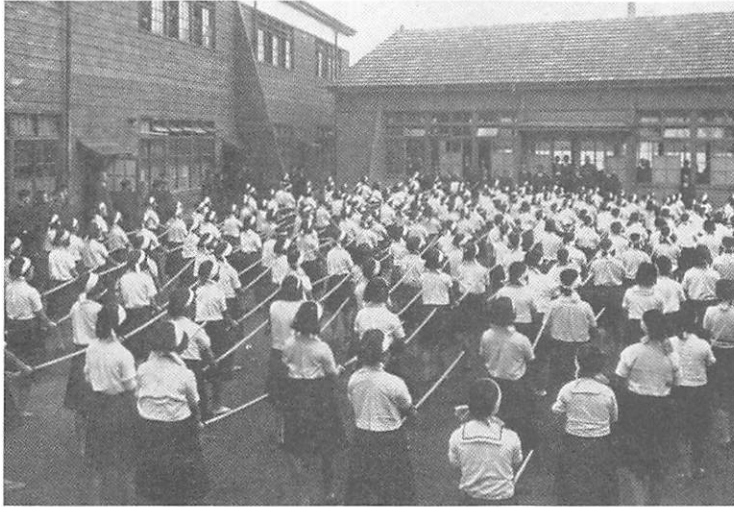
教職員生徒の応召

大東亜戦争の初期時代には、出征軍人の慰問品の調達、国防献金など、職員生徒を挙げて活躍したが、戦争がますます熾烈になるにつれ、生徒も学生勤労報国隊として重工業へ動員され、職員の中にも応召されて戦地へ行った者、白紙応召として軍需工場へ動員される者もあり、学校は戦時体制一色に塗りつぶされていった。

学生の出勤した工場は、日本無線、目黒無線、などの無線関係が主だった。このほか帝国劇場の中で、アメリカへ爆弾を運ぶ風船のコンニャク糊り張りの作業にも出勤した。学生は皆、日の丸のハチマキをして、武運長久を祈りつつ真剣に作業に従事した。

昭和十七年ころは各官庁を初め、銀行、会社などで事務系統には、

『貞風館』
現在残っているのは
この額のみ



範士高野佐三郎の指導の下に全国で初めて女学校に剣道を取り入れた村田女子商業学校の練習
向かって右が貞風館道場
(昭和15年12月)

主任以外は全部女子に職場の配置替えをし、男子は、あけて工場で重労働に参加するようになった。いきおい簿記学校に入学する男子も少なくなり、女子と身体障害者の男子のみとなっていた。

戦時中東都唯一の簿記学校として残る

このときにあたり、東京都内の簿記学校は本校を除き、ほとんど閉鎖の止むなきにいたり、自然休校状態に入っていたが、ひとり村田簿記学校は傷痍軍人の委託生を受け入れ、また村田謙造は、公共職業指導所の嘱託を受けて、神田職業指導所、横浜桜木町職業指導所の講師として活躍、厚生省の配慮もあって、唯一簿記教育の孤塁を守ったのである。

ところが、空襲のため、昭和二十年四月十四日には、簿記学校の校舎も焼失し、さらに五月二十五日には女子商業学校の校舎も失う災厄にあった。このため、村田謙造の西片町の自宅を臨時生徒集合場所として開放、空襲の危険が迫る中、必死の思いで授業を続けたのだ。

また、女子計理学校は本郷真砂町の工場跡を集合場所にし、授業を行っていたが、いよいよ学校疎開を計画しなければならぬ情勢となった。たまたま新潟へ日本無線が工場疎開をするため、これに便乗して、学校疎開を決定、疎開希望者一五〇名の荷物を取りまとめて貨物で発送した途端に終戦となった。